

# 「靈的な知恵と理解力、神のみこころ」

## コロサイ 1 : 9

堀田修一 25・1・12

I 「こういうわけで、私たちはそのこと（コロサイの兄弟姉妹の信仰と愛）を聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています」：9。パウロは獄中にいても、共におられる素晴らしい主と交わり、また、人々のためにとりなしの祈りができた。私たちも、互いにとりなしの祈りをし支え合いましょう。彼の祈りを学ぶことによって、深く祈りについて教えられる。彼は、いったい何を祈り求めたのだろうか。まず「あなたがた（複数形：教会）が、あらゆる靈的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように」と祈っている。背景には、異端の教師による間違った教え、知恵、理解の侵入が教会にあった。主の教会は、真理に立つ必要があり、聖書から教えられ続け、真の知識に満たされ続け、異端の教えに気づき、惑わされず、聖書の真理に立つ教会を建て上げ続ける事が使命です。教会に祈られる聖書の真理を説き明かす礼拝説教は非常に重要で教会の靈的な生命です。続けてお祈りください！※悪魔が狙う神学校の証し。世界中で。

1. 「靈的な」。生来の人間的なものではなく、聖霊の照明によるもの。聖霊は、私たちの心の内面を照らし、靈的な知恵と理解力を与え、罪に気づかせ、その罪のために十字架で死なれた主を信じる信仰に導かれる。また、神を深く知る知恵と理解力を与え続けてくださる。この世の知恵や知識は、人の内面を照らすことなく（自分自身の内面の罪を照らし示すことをしない）、かえって悪質にならせ、自分を誇らせる。「知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。人がもし、何かを知っていると思ったら、その人はまだ知らなければならないほどのことも知ってはいないのです」（I コリント 8 : 1、2）。聖書を真に学び続けている人は、頭でっかちではなく、ますます人格が謙遜にされ、自分は知っていると思いがらず、聖書を生涯深く学び続け、みことばの真理を喜ぶ人に変えられ続けます。

2. 靈的な「知恵（原語：ソフィア。形容詞：賢い。動詞：知恵を与える）」。他の箇所からわかる「知恵」の意味→「あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい」（使徒 6 : 3）。御霊とつながっている知恵。「神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように」（エペソ 1 : 17）。神を知るための知恵。「教会を通して、神の豊かな知恵が示されるため」（3 : 10）。教会を通して（宣教と聖書を教え語る教会を形成する必要）示される神の豊かな知恵。「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです」（コロサイ 2 : 3）。「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え」（3 : 16）。キリストのことばとつながっている知恵。「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることもなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます」（ヤコブ 1 : 5）。自分には知恵が欠けていると自覚し、神に求める者に、神がきっと与えて下さる知恵、判断力。「上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです」（3 : 17）。

3. 「理解力」原語の意：理解（判断・洞察）力、理解、洞察、悟り。他の箇所からわかる「理解力」の意味→「聞いていた人々はみな、イエスの知恵（原語は「理解力」と同じ）と答えに驚いていた」（ルカ2：47）。イエスが持っておられる理解力。それゆえに私たちは、主に祈り求める。「それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ（愛により結び合わされる聖徒の交わり）、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです」（コロサイ2：2）。愛によって結び合わされる交わり（教会の交わりによりみことばの理解が深まる）と結びついて与えられる理解力。神の奥義であるキリストを真に知るようになる理解力。異端の間違った教えに惑わされな

い理解力。「私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する力をあなたに必ず与えてくださいます」（Ⅱテモ2：7）。言われていることをよく考え、そして主に理解する力を祈り求めよう。

Ⅱ「神のみこころについての知識に満たされるように」。「神のみこころ（原語：意志、願望、意向）」→何に示されている

①聖書全体。十戒、山上の説教（ある間違った教えを信じる人は、「山上の説教は、主が十字架で死なれる前の教えなので私たちには当てはまりません」と語る）。主を信じ、互いに愛し合うこと（Ⅰヨハネ3：23）。それゆえに、私たちは、日々みことばを読み、神のみこころ（御意志、神の喜ばれること）を知る。

②聖書に具体的に記されていないこと→私たちの進路、職業選択、住む場所、他、節目節目の決断すべき事等。

1. みことばを無理にこじつけたり、私的解釈をしない。但し、日々みことばで養われ、適切な知恵、理解力、判断力、識別力をいただく。デボーションのみことばや通読のみことばで導かれる。証し。

2. 知恵、判断力を与えて下さる神に心から祈り求める。神は心にじわじわと判断力を与えられる。

3. これまでの出来事、経験、状況を狭い視野や一つだけで判断せず、一つ一つ結びついていることを心に留め、総合的に神のみこころを判断する。「主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい」（エペソ5：17）の「悟りなさい」という原語は、「考え合わせる」という意味。神のみこころを見出す課程は、神のみことばと、神の御手の中で起こる出来事の資料をもとにして「考え合わせる」過程。「堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です」（ヘブル5：14）。

4. 天からの神の声が肉声で聞こえるわけではない。それゆえ、ある時は、祈りつつ踏み出すべき時がある。神は、神のみこころを先にすべて細かく示して前進させる方ではない。「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかわからないで、出て行きました」（ヘブ11：8）。踏み出して歩む中で、一步一步導いてくださる。信仰生活とは、これから先の神のみこころがすべてわかって歩むも

のではない。これからの人生のためのみこころを主にいっぺんに示していただいて一度だけ、まとめて祈るのではなくて、一步一步導かれる主に絶えず祈り抛り頼みつつ歩みましょう。

5. 主にある信頼できる人に相談する。自分の事は、なかなか客観的になれない。相談して聞いてもらえることは主にある交わり、主のみこころを祈り求める交わりの幸い。「二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです」マタイ18:20。助言をもらい、「その人が言われたから」ではなく（悪い状況になった時その人のせいにしないように）、主に祈りつつ、一つ一つを考え合わせ、信頼できる人の助言も参考にし、神に祈りつつ自ら判断していく。自分の為にも、お互いの為にも心から祈りたい。私たちが「あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識（認識）に満たされますように」。賛美しよう「主よ、御手もて、引かせ賜え、ただ主の道を歩まん」